

# 大豆管理情報 (第1号)

## 1 気象経過

### (1) 平均気温

5月下旬は21.5℃(対平年差+3.3℃)でかなり高く、6月上旬は21.0℃(同+1.0℃)と高く、6月中旬は20.4℃(同-0.5℃)と平年並みだった。6月下旬の平均気温は、22.9℃(同1.0℃)と平年並みであった。

### (2) 降水量

5月下旬は65.0mm(対平年比187%)、6月上旬は66.5mm(同245%)とかなり多く、6月中旬は29.0mm(対平年比58%)と平年並であった。6月下旬の降水量は、74mm(同70%)と少なかった。なお、6月7日頃に梅雨入りした(平年より5日早い)。

### (3) 全天日射量

5月下旬は22.9MJ/m<sup>2</sup>/day(平年比123%)と平年よりかなり多く、6月上旬は18.1MJ/m<sup>2</sup>/day(同96%)と平年並、6月中旬は19.9MJ/m<sup>2</sup>/day(同比118%)と平年より多かった。6月下旬は13.4MJ/m<sup>2</sup>/day(同比96%)と平年並だった。

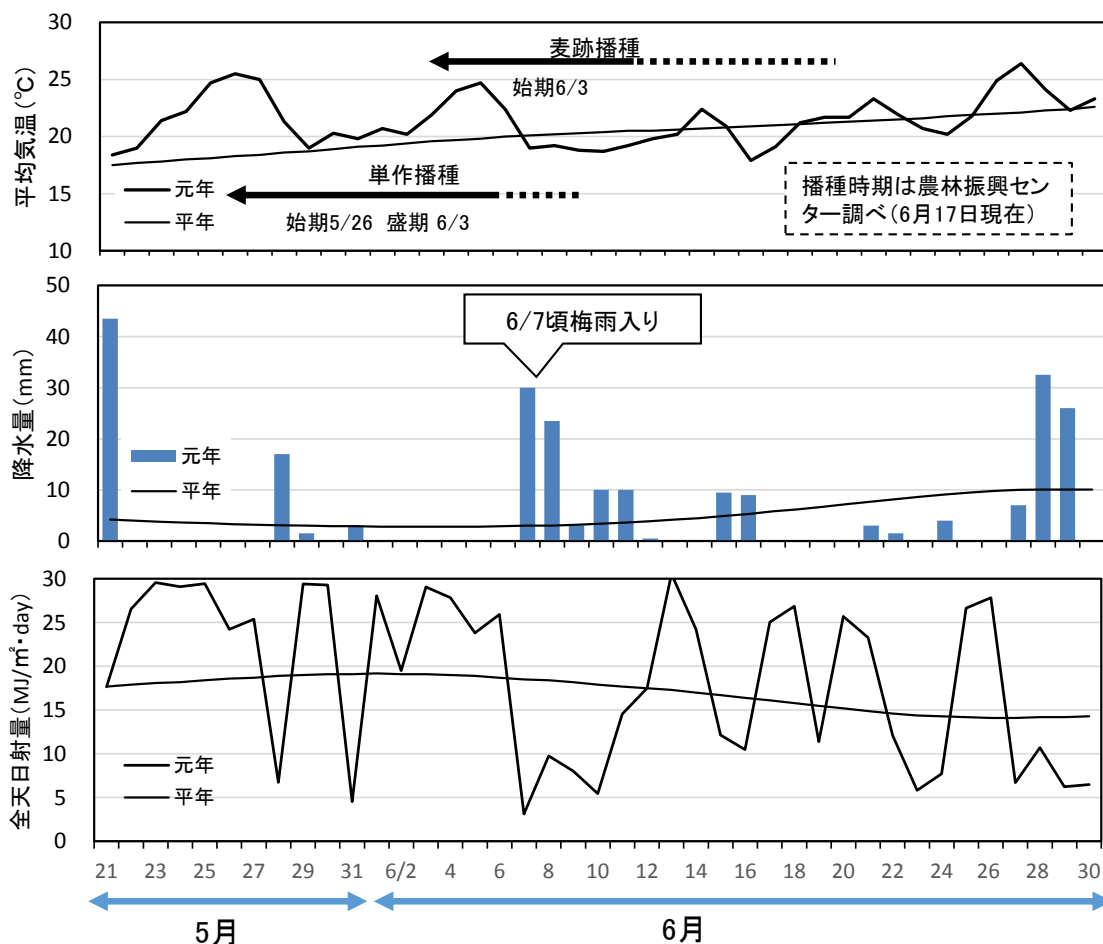


図1 播種以降の気象経過 (富山地方気象台)

## 2 苗立状況および生育経過

### (1) エンレイ

#### ① 苗立状況

- ・単作の播種時期は、5月29日と平年より1日早かった。平年に比べ苗立率は95.1%と平年並、苗立本数は17.4本/m<sup>2</sup>とやや多かった。
- ・麦跡の播種時期は、6月3日と平年より7日早かった。平年に比べ苗立率は87.7%とやや低く、苗立本数は17.3本/m<sup>2</sup>と平年並であった。

#### ② 生育状況

- ・単作では、平年に比べ主茎長20.5cmと短く、本葉葉数4.0葉と0.8葉少なくなっている。
- ・麦跡では、平年に比べ主茎長17.9cmとかなり長く、本葉葉数3.0葉と0.7葉多くなっている。

### (2) シュウレイ

#### ① 苗立状況

播種時期は6月8日となった。苗立率は89.6%、苗立本数は15.1本/m<sup>2</sup>と近年並であった。

#### ② 生育状況

主茎長は18.8cmで、本葉葉数は2.1葉であった。

表1 大豆生育観測ほ等調査結果（7月1日調査）

		播種月日 (月/日)	苗立調査		生育調査(7月1日)			
			苗立率 (%)	苗立本数 (本/m <sup>2</sup> )	主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本/株)	
エン レ イ	単作	R元	5/29	95.1	17.4	20.5	4.0	0.0
		H30	5/31	95.0	17.3	22.6	4.1	0.0
		平年	5/30	92.8	16.1	25.2	4.8	0.1
		平年比(差)	-1	103	108	81	-0.8	0.0
	麦跡	R元	6/3	87.7	17.3	17.9	3.0	0.0
		H30	6/9	93.0	16.9	13.7	2.0	0.0
		平年	6/10	94.1	16.7	14.3	2.3	0.0
		平年比(差)	-7	93	104	125	0.7	-
シュウ レ イ	R元	6/8	89.6	15.1	18.8	2.1	0.0	
	H30	6/8	91.7	15.3	14.9	2.0	0.0	
	近年	6/6	91.7	15.3	19.7	2.9	0.0	
	近年比(差)	2	98	99	96	-0.8	-	

注1) 調査ほ場数: 単作エンレイ(5ほ場)、麦跡エンレイ(3ほ場)、シュウレイ(単作1ほ場、麦跡2ほ場)

注2) 本葉葉数は、H22以降は0.5葉刻み、それ以前は0.1葉刻みの測定による平均

注3) 平年値はH21~H30、シュウレイの近年値はH22~30の平均

## 3 当面の技術対策

○2回培土を確実に行うとともに、培土後は排水溝の連結などの排水対策を徹底する。

○培土のみで雑草を抑えきれない場合は、雑草の種類や葉齢に応じて茎葉処理除草剤を適切に使用する。

### (1) 培土の徹底

- ① 培土は本葉2~3葉期と本葉4~5葉期を目安に、確実に2回実施する。
- ② 単作で1回目の培土が実施されていないほ場は、土壤条件を確認してすみやかに行う。
- ③ 培土作業は可能な限りほ場が乾いている時に行い、特に2回目の培土では株元まで土をかける。

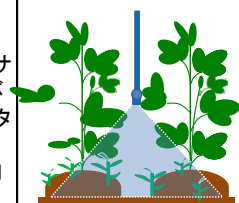
(2) 排水対策の徹底

- ① 降雨の翌日に畦間に水が溜まっているほ場では、停滞水を除去するため、排水溝の手直しを行う。
- ② 培土後は、畦間や額縁排水溝と排水口との連結を確実に行う。 枕地は、水が停滞しないように畦を切って連結する。

(3) 早めの雑草対策の実施

- ① 雑草の発生を抑えるため、2回の培土を確実に実施する。
- ② 雑草の発生が多く、培土のみでは雑草を抑えきれないほ場では、雑草の種類や葉齢に応じて適切な茎葉処理除草剤等を散布する (表2)。
- ③ 難防除雑草 (帰化雑草等) の発生がみられるほ場では、大豆及び雑草の生育ステージに応じて、適期に遅れず防除を実施する (図2、3)。
- ④ ほ場周辺 (畦畔、農道等) で難防除雑草の発生がみられる地域では、開花がみられたら直ちに防除 (除草剤散布、地際からの刈取り) する。

表2 大豆の生育期処理除草剤

種類	対象雑草	除草剤名	使用方法	使用時期			使用回数	除草効果についての留意点		
				時期	雑草の生育ステージ等	収穫前日数				
選択性除草剤	1年生イネ科	ナブ乳剤	雑草茎葉散布	全面散布	雑草生育期	イネ科雑草 3~5葉期	30日前まで	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用雑草としてスズメノカタビラを除く。</li> <li>・広葉雑草及びカヤツリグサ科には効果が期待できない。</li> </ul>	
		ワンサイドP乳剤			雑草生育期	イネ科雑草 3~5葉期	60日前まで	1回		
		ポルトフロアブル			雑草生育期	イネ科雑草 3~10葉期	30日前まで	1回		
	1年生広葉	大豆バサグラン液剤			大豆2葉期~開花前	雑草の生育初期~6葉期	45日前まで	1回		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科、ツユクサ科の雑草には効果が劣る。</li> <li>・イネ科雑草には効果がない。</li> </ul>
非選択性除草剤	1年生雑草	ラウンドアップマックスロード	雑草茎葉散布	畦間処理	雑草生育期	-	前日まで	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非選択性除草剤なので、大豆にかからないように十分注意する。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">畦間・株間処理</p>	
		ザクサ液剤					28日前まで			ザクサ及びバスタ 3回以内
		バスタ液剤					28日前まで			
	1年生雑草	ロロックス	雑草茎葉兼土壌散布	畦間・株間処理	大豆5葉期以降 雑草生育期	雑草草丈 15cm以下	30日前まで	1回		<ul style="list-style-type: none"> <li>・非選択的に作用するため、大豆の本葉にかからないように散布する。</li> <li>・イネ科雑草やツユクサには効果が劣る。</li> </ul>
	1年生広葉	タッチダウンiQ	雑草茎葉塗布	大豆着莢期以降 雑草生育期	-	7日前まで	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専用器具を使用する。</li> <li>・塗布処理場所は茎とし、大豆の草冠より上の10~15cm部分に行う。</li> </ul>		

吊り下げノズル使用！！

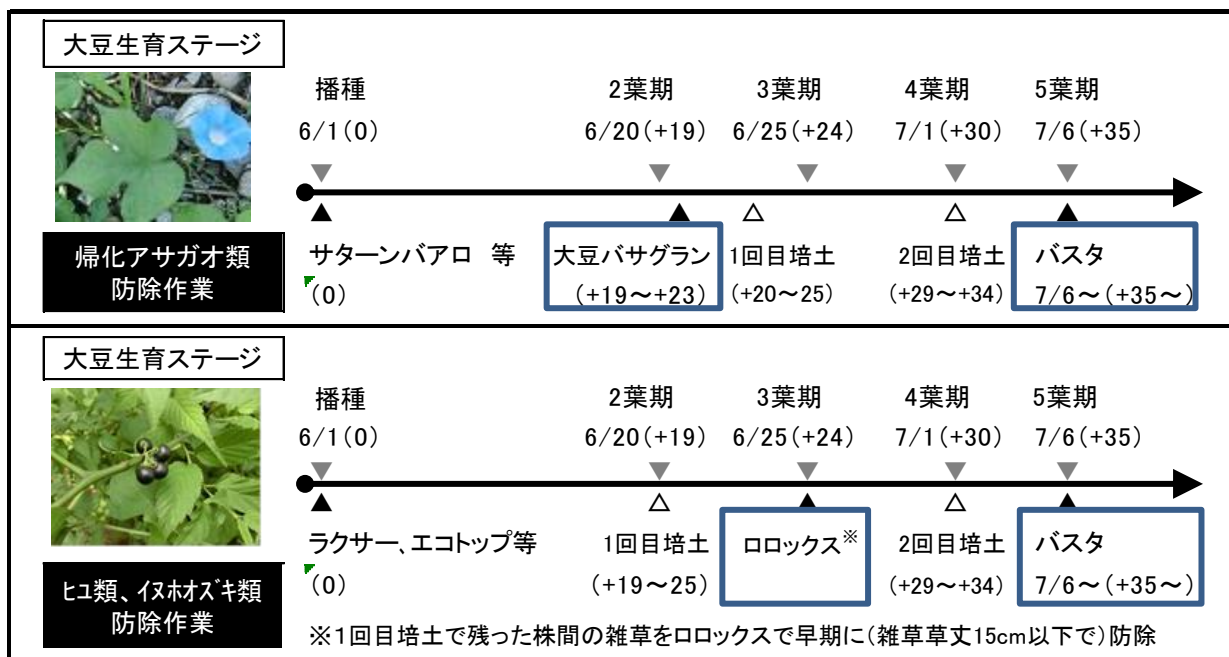


図2 難防除雑草（帰化雑草等）に対する防除と管理の目安

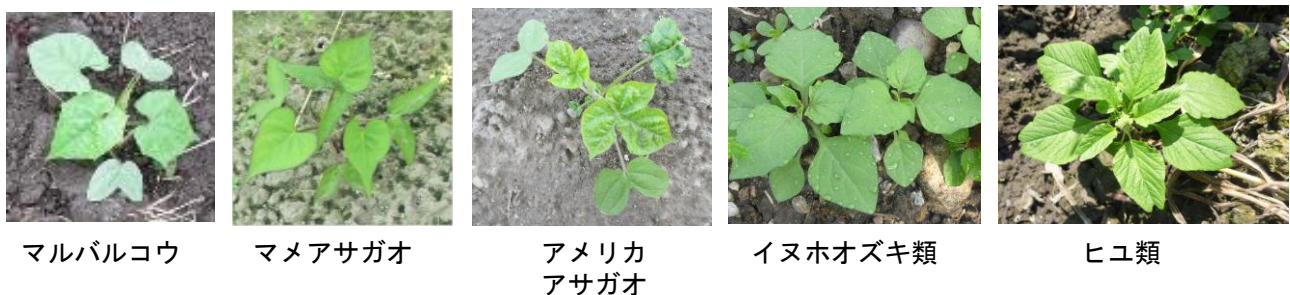


図3 難防除雑草の幼植物

#### (4) 病虫害防除の実施

##### ① 茎疫病

多湿条件で発生が多く、冠水は発生を助長する。

常発地や冠水したほ場を巡回し、発生が認められた場合には、確認後直ちに地際部を中心に薬剤（Z ボルドー粉剤 DL、フェスティバル C 水和剤など）で防除する。

##### ② 葉焼病

強風雨で蔓延し、多発すると収量・品質の低下をもたらす。

発生が認められたら、薬剤（Z ボルドー、フェスティバル C 水和剤）で防除する。粉剤より液剤の防除効果が高い。なお、シュウレイについては、7月下旬頃に予防散布を行う。

##### ③ ウコンノメイガ

生育が旺盛で葉色が濃いほ場で発生が多く、多発すると減収する。

7月末頃に幼虫による葉巻の発生量を確認し、1株当たり平均葉巻数が6個以上であれば、直ちに薬剤（サイアノックス粉剤、プレバソンフロアブル5）で防除する。